

# 特集 福幸応援!

## 焼きたてに食らいつく



ふれあい市場横の「海産弁当店 フラミンゴ」では、旬の魚介類の串焼きやフライ、弁当などを販売。

## 新鮮野菜



「鳥の海ふれあい市場」では、野菜や加工品も販売。

## 巨理名産



本場のおいしい「仙台いちご」(“仙台”はブランド名)。

## 語り部に聞く



「被災地訪問企画」の最初は、巨理町荒浜地区交流センター。「震災語り部の会ワツタリ」の方が、震災の様子やその後の復興の状況などを、映像やパネルで紹介してくれる。

## 海産弁当店 フラミンゴ

住 巨理町荒浜字築港通り28-2  
 問 ☎080-3321-1203  
 営 10~16時(土日祝日のみ)

## 鳥の海ふれあい市場

住 巨理町荒浜字築港通り28-2  
 問 ☎0223-35-2228  
 営 9時30分~17時(土日祝日のみ)

## 季節限定の味覚



海産弁当店フラミンゴの「ほっき飯」。持ち帰りはもちろん、無料のあら汁とともにゆっくり食べられるスペースも。

## 津波の到達点



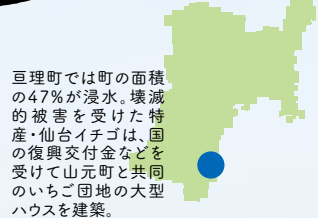
「わたり温泉 鳥の海」は、再開に向けて修復中。津波到達点を示す青いプレートが取り付けられていた。

## 慰霊碑に...



荒浜地区まちづくり協議会が建設した「鎮魂の杜」の慰霊碑に向かって合掌…。周囲は更地が広がり、風が吹き抜けてゆくのみ…。

## 巨理町



巨理町では町の面積の47%が浸水。壊滅的被害を受けた特産・仙台イチゴは、国の復興交付金などを受けて山元町と共同のいちご団地の大型ハウスを建築。

## 震災語り部の会

## ワツタリ

この日のガイドは、菅原明さんとちづ子さんご夫妻



ボランティアガイドがバスに同乗して、被災地を案内してくれる。バス1台(10名以上)から受付(バスの手配は申込者が行う)で、料金は、バス1台ごとの有料制。HPからガイドパンフレット、申込書などダウンロード可。

問 巨理町観光協会(商工観光課内)  
 ☎0223-34-0513  
<http://www.datenawatari.jp/>

# 特集 福幸応援!

震災からもうすぐ3年。甚大な津波被害を受けた沿岸地域は、今どんな状況なのでしょう。テレビや新聞を通してではなく、自ら現地を訪ねて、できることを考えてみるのも大切なことではないか。編集部ではそう考え、今回、巨理町、名取市関上地区、仙台市宮城野区蒲生地区を訪ねました。



市場がグランドオープン!

生命が戻ってきた干潟!

イチゴの産地復活中!

浜の男衆・女衆の心意気!

## 被災地訪問 直接目と耳で触れ、考える機会に

## 巨理町 名取市関上

昨年の暮れも押し迫ったある日、みやぎ生協が主催する巨理町・山元町・名取市関上地区への「被災地訪問企画」に同行させてもらった。自身の目と耳で当時の様子や現状を確かめることで、被災された方へ思いを馳せ、くらしの再生・再建の問題や、被災者支援、防災などについて考えてみようという企画だ。

スタートは山元町の沿岸を車窓から視察し、巨理町の荒浜地区交流センターへ。集会所で町民ボランティア「震災語り部の会ワツタリ」のメンバーが、津波が街を呑み込んでいく様子や避難所の様子、町の復興の過程などをまとめたDVDやパネルを見せながら、状況を話してくれる。「ワツタリ」は、震災の記憶を後世に語り継ぎ、復興の道を歩んでい

る姿を見てほしいという思いから始まった。昨年4月から半年間で全国から159団体の、4500人近くがガイドツアーに参加しているという。続いてバスに乗り、避難所だった荒浜小学校、現在再建中の荒浜中学校の前を通り、慰霊碑がある「鎮魂の杜」へ。周辺にはポツンポツンと建物が建ち始めてはいるものの、ほとんど何も無い更地の中に立つ石碑に手を合わせた。この訪問企画を知ってすぐ申し込んだという仙台市若林区の武田八重子さんは、「友人が住む石巻にはお手伝いに行っただけ、南の方に来たのは初めて。もっと早く来て、何かできることはなかったのかと感じています」と話してくれた。

「わたり温泉 鳥の海」の前を通り、巨理町の産直品を販売する「鳥の海ふれあい市場」の仮設店舗へ。以前ほどの品数はないが、それでも週末には巨理産の新鮮な魚介類や野菜、果物や菓子、加工品が並ぶ。参加者は、さまざまな地場産品を購入していた。



JA みやぎ亘理 吉田観光いちご園

住 亘理町長瀬字稲荷前45-10  
 問 ☎0223-34-9471 (予約制)  
 営 10時~15時(受付終了)  
 期 ~2月末:土・日・祝のみ営業  
 3月~6月上旬:平日も営業(月・祝休)  
 料 30分食べ放題1500円  
 (5/11以降1300円、4歳~小学3年生半額)



JA みやぎ 亘理 吉田観光いちご園の小野幹彦さんと自慢のいちご

いちごランドこちゃん園

住 亘理町長瀬字西谷地116  
 問 ☎0223-34-4571 (予約制)  
 営 9時~14時30分(受付終了)  
 期 3月1日~6月上旬:平日営業(不定休)  
 料 30分食べ放題1500円  
 (5/11以降1300円、4歳~小学3年生半額)



東北有数の生産量を誇っていた亘理のいちご。震災で、ほとんどのいちご農地が流され、塩害にも苦しめられた。小野幹彦さんが営む「JAみやぎ亘理 吉田観光いちご園」では、昨年からのなかにかいちご狩りを再開し、今年にはほぼ震災前と同じくらいまでにいちごが育っているという。「震災時は、いちごの最盛期。それが、すべてひっくり返ってハウスは泥とガレキだらけ。でも、お客様からまたいちご狩りに行きたいって応援の電話をもらって、もう一度やってみようかと思って前向きになっただ」という小野さん。これからが本番となる亘理町のいちごを食べに出かけてみては?

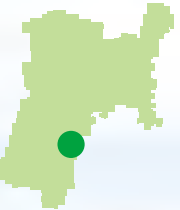
亘理町 「仙台いちご」が30分食べ放題! いちご狩り



去年生まれた仙台いちごのイメージキャラクター「わたリーナ」です。よ3しくネ!

名取市

名取市では、仙台空港なども被害を受けた。被害の大きかった閉上地区は、貞山堀より東は居住禁止に。



閉上の記憶



「閉上の記憶」の館内では、閉上地区の津波の様子やあの日見た光景、被災児童への心のケア活動などを常時ビデオで上映。「地球のステージ」代表理事の空山紀彦さんは、心療内科医で「名取市学校



番人のひとり。上條幸恵さん

心のケア

止まったままの時計



閉上中学校の時計は、地震が起きた時刻で止まったまま。

慰霊



閉上中学校遺族会が建てた慰霊碑に、合掌...

私達のまち



閉上小学校の子どもたちがつくった「閉上のまち」のジオラマを展示。「震災前」「震災後」「未来」の三部作。

記憶として残すこと



「閉上の記憶」は、入場無料。閉上中学校生徒の遺族が建立した慰霊碑の番人と学芸員が常駐。

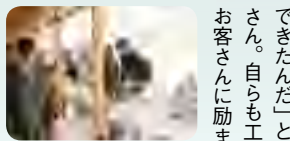
「閉上の記憶」は、特定非営利法人「地球のステージ」と公益社団法人日本国際民間協力が共同運営する施設。毎月第3土曜、13時30分~15時まで、被災した子どもたちが心のケアの取り組みで制作した映画「不思議な石」を上映。日曜14時30分~は「語り部の会」を開催。

住 名取市閉上庚申塚48-1 料 無料  
 問 ☎022-385-2331  
 営 月・水・木:10時~15時  
 土・日・祝: 9時~16時  
 \* 毎月第2日曜日の午前中は会議のため貸し切り(12時30分~開館)

食べ物三昧で応援!

名取市

昨年12月にランドオープン! かりあげ港朝市



江戸時代以前から漁港として栄えた閉上。その地で約38年前から続くのが「ゆりあげ港朝市」だ。津波ですべてを失ったが、組合員が奔走し、なんと2週間後に別の場所で市を再開。そして昨年5月に元の場所で再開した。「とにかく前に進むしかなかったからね。再開するために、いろんな人と会ったし、取材にしてもすべてを受け入れてきた。そこに、カナダ政府がカナダの木材を使用した建物を被災地に寄付したいがどうだ、という話が舞い込んできたんだ」と話す理事長の櫻井広行さん。自らも工場と自宅を流されたが、お客さんに励まされ、組合員を鼓舞しながらここまで来たという。12月オープンの新朝市では、カフェや食事処の入った「メイブル館」が常設。海産物の販売や震災について学べるコーナーも。



市場の元気印、協同組合理事長の櫻井広行さん

住 名取市閉上5-23-20 問 ☎022-796-2078  
 営 毎週日曜6時~13時  
 メイブル館:平日、土曜10時~16時 木曜休み

亘理町

昨年7月、鳥の海にオープンした美味処 甘味レストラン水けしき



「特選赤貝海鮮丼セット」は1300円

仙台市若林区の深沼に小さな店を出していたご主人の渡部重実さんは、被災後、以前から憧れていた鳥の海での再出発を決心したという。メニューは、パスタやビーフカレー、海鮮丼などのほか、いちごを使ったパフェやケーキなどのスイーツも充実。3月には、イベント等ができるスペースをつくり、新装オープンの予定。

住 亘理町荒浜字御狩屋159-106  
 問 ☎0223-36-8042 営 10時~15時(夜は予約のみ)  
 休 水・木曜(変更の予定あり)

その後、一行は町内で昼食をとり、名取市閉上のプレハブ施設「閉上の記憶」へと向かう。ここは、地元の人たちの集う場所として、震災を語り継いでいく場として、また閉上中学校遺族会が建てた慰霊碑を守る場として、番人と学芸員が常駐している。最後に、ゆりあげ港朝市内にある「メイブル館」で買い物をして、その日の訪問企画は終了。被災地に立つと、自然に対する脅威や亡くなった方たちや遺族の無念さ、自身の無力感、復興までの果てしない道のりなど、さまざまな思いが追ってくる。しかし、現地の人たちは、つらい思いを抱えながらも強い意志をもって前へ進み始めている。被災地を訪ね、話を聞き、買い物をする、食事をするのも、支援の一つになるのではないだろうか。そして、津波の怖さと被災した方々のことを後世へ語り継ぎ、決して忘れてはならないのだと強く感じた。

現場を訪れて考える 私たちにできること



自然観察

沈黙の干潟から 再び生物の楽園へ

七北田川河口付近に広がる「蒲生干潟」。海水と淡水が混じる汽水環境があることから、鳥類やカニ、貝などの珍しい生物や海浜植物が生息する「生命の宝庫」と言われてきた。しかし、津波で大半が流され復元は難しいのではとの見方もされていた。30年以上前から干潟を見守り、震災後も定期的に観察を続けてきた「蒲生を守る会」の熊谷佳二さんに案内してもらった。

「震災から16日後に来た時は、生命の気配がまるで感じられない、沈黙の干潟でした。地形も大きく変わってしましたね。でも、その後予想をはるかに上回る速さで回復しています」と語る熊谷さん。震災から2ヶ月後には、砂浜が発達し汽水環境の維持が確認され、少しずつ動植物の姿が見られるようになったという。

天然記念物



秋から冬に渡ってくるコウガン。国の天然記念物で、蒲生は世界的にも貴重な集団越冬地の一つ。

野生生物の宝庫



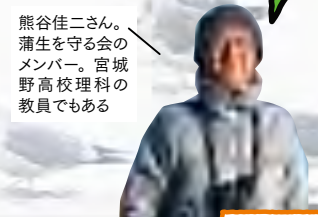
環境省により「鳥獣保護区特別保護地区」に指定されている蒲生干潟。写真はダイサギ。



仙台市

津波の被害を受けた地域などは、復興特区制度を取り入れ、新たな地域産業を開拓中。

蒲生を守る会



熊谷佳二さん。蒲生を守る会のメンバー。宮城野高校理科の教員でもある

季節ごとの自然観察会、毎月の鳥類生息調査、例会、仙台港関連工事の干潟への影響を監視などの活動を行っている。会報「蒲生を守る会だより」(不定期)も発行。

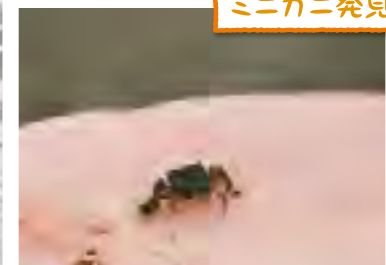
図 蒲生を守る会 ☎022-223-5025(木村方)

自然に癒やされて...



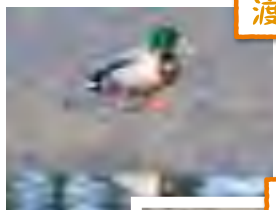
干潟の楽しみは、四季を通じて多種多様な渡り鳥に出会えること。蒲生干潟では270種以上の野鳥が観察されている。写真はハマシギとミユビシギ。

ミニガニ発見!



熊谷さんが手のひらにのせた砂粒。...かと思ったら、動き出してびっくり! 生まれて一年未満の小さなケフサインガニでした。

渡り鳥



渡り鳥のマガモ(オス)。

砂ダンゴ



砂ダンゴは、コメツキガニの食べ残し(小粒)と巢穴を掘った時にできたもの(大粒)。

回復の一方で、新たな問題も。急ピッチで進む防潮堤工事が、干潟の生態系に大きな影響を与える事が必至なのだ。「防潮堤は必要ですが、設置場所などを配慮してもらえば、影響を最低限に抑えることはできます。干潟には、浄化作用のほかにもさまざまな役割があります。復旧工事を、生物多様性に配慮した方法で進めてもらえるよう、行政と話し合いを進めているところです」。未来の世代に向けて、人と自然の共生についても考えていかねばならない。

消えた干潟



震災前  
震災後の蒲生干潟。震災前(左の写真)と同じ場所で撮影。

震災から2ヶ月後には、砂浜が発達し、汽水環境の維持が確認され、少しずつ動植物の姿が見られるようになった。地形の変化などの影響で七北田川の河口が閉じてしまい、潟への海水の流入が途絶えてしまうなど、何回かのかく乱はあったが、現在、渡り鳥の渡来数は震災前の約7割まで戻る。

じーっと観察...



砂の中に何がいるのかな?

初めてさわった!



毎年、季節ごとに蒲生で開催されてきた自然観察会。震災後は公共交通機関がないため、不定期に。今回は未定。

写真提供: 熊谷佳二さん ※背景の写真はユリカモメの群れ

仙台市

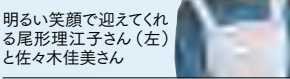
蒲生の人たちがゆつくり集まれる場を プロデュース

2012年の11月、復興半ばの蒲生地区に新しくピザとパスタの店がオープン。「津波の被害は受けたものの美家が所有していた建物に残り、蒲生の人たちが集まれる場所を作りたかった」と尾形さん。まわりがカリッと中がもちっとした石窯で焼き上げたピザ目当てに、遠方からも客が訪れる。



今が旬の牡蠣のピッツァ 1500円

明るい笑顔で迎えてくれる尾形理江予さん(左)と佐々木佳美さん

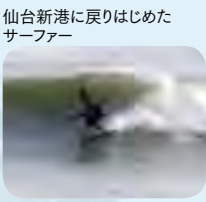
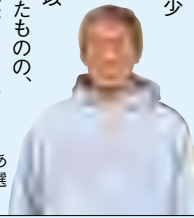


住 仙台市宮城野区蒲生1-4-31 ☎022-355-6401  
営 9時~(ピザ、パニーニは11時~。生地がなくなり次第終了)  
休 木曜

蒲生と海への愛を応援!

サーファー達の情報拠点 サーフショップ M-I-I-N-G エミィンダ

昨年6月、被災を受けた店から少し東側で営業を再開した高橋誠さん。車で5分ほどの仙台新港でのサーフィンが日課だったが、震災後は1年間自粛してきた。現在は、以前の半分程度のサーファーが戻ってきたものの、手放して喜んでサーフィンができる状態ではないという。「でもこの波は、間違いなく日本。今もまだまだままならないことはあるけど、この場所ががんばっていきたくてね」と明るく話してくれた。



仙台新港に戻り始めたサーファー

若いサーファーたちの兄貴分である高橋誠さん。昨年の全日本選手権では3位という成績

住 仙台市宮城野区蒲生1-4-2 ☎022-786-8190  
営 12時~20時 休 火曜